

令和7年度 学校評価自己評価表 (中間評価)

三次市立和田小学校

【学校教育目標】 つながりを大切にし、自ら考え、行動・挑戦する子供の育成				【使命・存在意義】 なりたい自分の夢の実現のために、和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して、ふるさと和田への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。										
【めざす子供像】 つながる子 考え行動する子 挑戦する子														
◎つながる子 (ひと・もの・ことと関わる子、認め合う子) ＊学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養【主体性】【協働性】 ◎考え行動する子(学ぶ喜びを感じる子、考え行動する子) ◎挑戦する子 (自分の夢や目標に向かって挑戦する子) ＊生きて働く知識・技能の習得【知識・技能】 ＊未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成【思考力】【判断力】【表現力】				【評価基準】 (達成値)÷(目標値)×100の値 A:目標を達成(100以上) B:目標をほぼ達成(85以上100未満) C:目標を下回る(75以上85未満) D:目標を大きく下回る(75%未満)										
	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価項目	中間 目標値	最終 目標値	中間評価 (10月)	最終評価 (2月)	結果と課題の説明	改善計画	関係者 評価	(ご意見)学校関係者評価 A:適切 B:不適切 C:改善が必要		
確かな 学力の 定着		基礎・基本の 力、 活用力の定着	1・分かりやすい授業、個に応じた指導により、基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ICT等の活用により、思考を深め、表現するとともに、学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上	95		A		・児童アンケートで「授業が分かる」と回答した児童は95%で、目標値を上回った。 ・単元末テスト(国算理)「思考力・判断力・表現力」における基準以上の児童の割合は96%であり、目標値を上回った。 ・学習環境の整備や、個に応じたワークシートの作成等、学びの選択肢のある授業作りを行った。	他教科に比べて、算数科に課題があった。問題を正しく把握した演算決定を行うことができないため、キーワードや問われていることを整理させたり、具体物や視覚支援、図、表などを使って解いたりできる手立てを工夫する。	A	学校は、全体的に落ち着いた雰囲気です。子供も一生懸命集中して学習している。		
				・単元末テスト(国算理)「思考力・判断力・表現力」における基準(70%)以上の児童の割合85%以上	96		A		・学期に1回、理科・算数科を中心に自由進度学習に取り組むことで、児童が意欲的に学習を進めることができた。 ・学力の定着に個人差があるため、授業中やパワーアップ、休憩時間等を活用して個別指導を行うことで、基礎学力が定着を図っている。		A	授業では、児童の意見発表が活発であった。先生の指示も子供の考えを引き出そうとする意図が感じられた。		
		主体的な学び	2・児童が疑問や気付きをもち、解決する学習を仕組む。 ・児童自ら考えて取り組む学習をファシリテートする。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	89		A		・職員アンケート「各教科の見方・考え方を働かせた授業の実施」について肯定的回答をした教職員は89%と、目標値を上回った。 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」と肯定的回答をした児童の割合は97%と目標値を上回った。		A	子供と先生との信頼関係があり、学習指導や生活指導も深まっていると思う。		
				・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」85%以上	97		A		・児童は問題解決に向けて主体的に活動を進めることができた。また理科では、「比較」「関係付け」の考え方を意識した授業づくりを行った。 ・単元内自由進度学習において見通しをもたせて解決方法を考える場や、考えを深めるための協働的な場の設定を行うことで、主体的な問題解決につなげることができた。		A	子供が自己選択して学習する。「自由進度学習」は大変面白い学習方法である。主体性や思考力が向上しそうだ。		
豊かな 心の 育成	自他を尊重し、豊かな感性と社会性を身に付けた児童の育成	人を思いやる心の育成	3・読書習慣を身に付け、豊かな感性(知識力・想像力・集中力・語彙力)を育む。 ・道徳など教育活動全般において、人とつながる心を育む。	・読書目標(低:月8冊、高:月4冊又は600ページ)を達成した児童の割合80%以上	77		B		・記録カードの記入が定着している学年は、どの月も目標値を達成できている。4月は読書記録カードの配布が遅れたため、記入できない期間が発生してしまった。また、9月は学年によって記録の差が大きかった。 ・自分が悪いと思ったら、相手に自分からあやまることができる児童は、88% ・友達に悪口を言ったり、嫌がることをしたりしない児童は、88% ・困っている友達に、やさしく声を掛けることができる児童は、89% トラブルがあったときはその都度話をして解決をしている。肯定的な評価を各学年で意識付けをしている。そのため、相手のことを考えながら生活しようとしている児童が多い。 ・相手の目を見て挨拶ができた児童は83% 毎月あいさつ運動を行うことで、「目を見て挨拶」「大きい声で挨拶」を意識することができた。	記録カードへの記入の声掛けを、校内放送や朝会時、図書委員による読み語りの際の呼びかけなどで積極的に行っていく。図書委員会によるイベントを開催することで、図書室を利用する機会を増やし、読書推進を図る。	B	読書は大切な要素である。しかし、目標値が高い気がする。大人でも読書することが少ない人がいる。日頃からしっかりと読書に親しんでほしい。		
				・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	88		A		・毎月あいさつ運動を行うことで、「目を見て挨拶」「大きい声で挨拶」を意識することができた。挨拶標語を考える取組を1学期に行ったので、意識して挨拶を行っている児童が多かった。しかし、目を見て挨拶ができる児童は固定化している。 ・係りや当番、委員会、掃除などの仕事を忘れずしている児童は、86% ・友達と協力している児童は、84% ・自分の意見を言い、話し合いに参加している児童は、73% 高学年になるにつれ、全体の場で自分の意見を言い、話し合いに参加している児童の割合が低い。成長の過程を認めつつ、自分の考えを表現することによる自己有用感や自己肯定感を感じられる取組が必要である。		A	引き続き、学級の中や縦割り班の活動を通して全職員で指導に当たる。良い言動には即時評価で価値付けていく。相手の目を見て挨拶ができない児童もいるので、通学班会議や学級、全体で指導を行い、レベル3以上の挨拶名人を目指す。2学期に神杉小の執行部と和伸会があいさつ運動についての交流を行う予定。神杉小のあいさつ運動も取り入れ、活性化を図る。あいさつ標語を活用した取り組みを考える。		
		人権意識、自己有用意の向上	4・縦割り班活動、委員会活動、学級活動等で他者と協働して取り組む。	・児童アンケート「レベル3(相手の目を見て)の挨拶ができた」85%以上	83		B		・毎月あいさつ運動を行うことで、「目を見て挨拶」「大きい声で挨拶」を意識することができた。挨拶標語を考える取組を1学期に行ったので、意識して挨拶を行っている児童が多かった。しかし、目を見て挨拶ができる児童は固定化している。 ・係りや当番、委員会、掃除などの仕事を忘れずしている児童は、86% ・友達と協力している児童は、84% ・自分の意見を言い、話し合いに参加している児童は、73% 高学年になるにつれ、全体の場で自分の意見を言い、話し合いに参加している児童の割合が低い。成長の過程を認めつつ、自分の考えを表現することによる自己有用感や自己肯定感を感じられる取組が必要である。		A	肯定的評価を学級の中で積極的に行っていくことでさらに価値付けていく。「自分の意見を言い、話し合いに参加している」項目について、指導者が意図的にペア活動等を取り入れ全員が話し合いに参加できる機会を設ける。肯定的に聴く姿勢を育成し、「話してよかった」「間違っても良いんだ」と思えるような雰囲気をつくり話し合いの活性化につなげる。意思表示ができる発問を日頃から行っていく。	A	あいさつはしっかりとできているように思う。なかなか大人でも、目を見ての挨拶は難しい。
				・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	81		A					A		
健やかな 体の 育成	基本的な生活習慣を身に付け、健康でたくましく生きる児童の育成	基礎体力の向上	5・体育科の授業、委員会等の児童の主体的な取組により、体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業、委員会、体育的行事の充実」85%以上	100		A		・職員アンケート「体育科の授業の充実」は100%であった。 ・どの学年も授業の中でインターバル走を取り入れ、児童の運動能力に応じた授業内容としている。	・児童がいつでもめあてを意識できるように、ホワイトボードやICTを活用して提示する。 ・引き続き、児童実態に応じた指導や、単元ごとの振り返りを取り入れる。 ・春に行った新体力テストの結果から握力に課題があったため、保健委員会活動でトレーニング動画を作成するとともに、体育の準備体操などで握力を向上させるトレーニングを取り入れる。また、3学期には握力の2回目の測定を実施する。	A	小学校でもスマートフォンを持たせている家庭があると聞く。メディアルールについて、学校からの呼びかけと共に、家庭でのルール作りは大切である。		
		基本的な生活習慣の確立	6・メディアの使用の仕方を自ら管理し、健康な生活を送る。	・児童・保護者アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上	76		B		・授業の振り返りは、児童同士の交流やワークシート、ICTを活用して単元ごとに行っている。 ・体育の授業のめあては伝えているが、書いて提示するなど、視覚的に示していない学年があった。 ・運動会や水泳の授業では、記録会などを通して、どの児童も意欲的に取り組む姿がみられた。 ・「家でのメディアルールが守れている」についてのアンケート結果は、児童は77%、保護者は75%であった。 ・2か月に1回のメディアウィークの達成率は、児童・保護者とも数値に大きな差はなかった。しかし、学校生活アンケートの保護者評価では、普段の生活のメディアルールは、29%しか守れていなかった。 ・「わが子の使用実態を把握している」についてのアンケート結果は、80.6%であった。		A			
				・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上	81		A		・「家でのメディアルールが守れている」についてのアンケート結果は、児童は77%、保護者は75%であった。 ・2か月に1回のメディアウィークの達成率は、児童・保護者とも数値に大きな差はなかった。しかし、学校生活アンケートの保護者評価では、普段の生活のメディアルールは、29%しか守れていなかった。 ・「わが子の使用実態を把握している」についてのアンケート結果は、80.6%であった。		A			
		信頼される学校	保小中高の連携を進め、保護者、地域から信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	7・小中一貫教育を基盤とし、地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校運営協議会の意見を学校運営に生かす。	・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上	87		A			・外部関係者を招いた地域教育活動は、各学年計画的に実施できている。 ・保護者アンケートの結果から、「学校の教育方針がわかる」の肯定的評価は80.7%、「教職員は熱心に取組んでいる」の肯定的評価は96.8%、「児童の力を延ばす授業である」の肯定的評価は83.9%であった。平均87.1%であった。 ・総合質問紙調査の結果から、表現力(5年:86.3%、6年95.7%)、主体性5年:95.3%、6年102.8%、協働性(5年:88.6%、6年104%)であった。6年生は「対話や話し合い」の項目が平均以上、5年生は「将来の夢や目標がある」の項目が平均以上である。一方高学年とも、「自分の気持ちを言葉で表現する」ことが苦手な傾向がある。総合達成率の平均は95.4%である。	・コミュニティ・スクールの地域協働活動を大切にした学習を充実させる。 ・日々の授業実践や学力向上の取組を充実させるとともに、些細な出来事も保護者連絡するなどの保護者連携を密にしていこうと、学校への信頼度を向上させる。 ・学力向上の取組成果を、1月の三次市学力到達度検査での結果で保護者へ説明する。 ・総合質問紙調査の結果を踏まえ、塩町中学校区(C.S)の共通の取組を継続する。学区の教務主任が中心となり学級づくりや授業づくりを各校で工夫し、表現力・主体性・協働性が向上するようにしていく。	A
・総合質問紙調査(表現力、協働性、主体性)平均以上	95						B			A	総合質問紙調査は、様々な要素が図れる良いテストであると思う。塩町中学校区で地域協働活動(C.S)を進めるうえで、観点を決めた目標値にしていることは良いと思う。その他の学校の状況も聞いてみたい。			
働き方改革の推進	8・業務改善の推進、職員のタイムマネジメント力の向上を図る。 ・教育DX(指導方法の改革・業務改善)を推進する。			・職員の超過勤務月45時間以内100%以上	100		A		・業務改善を促進するため、毎週月、水、木、金曜日は18:00の退校、毎火曜日は17:30の退校とし残業時間の短縮を図っている。また、2学期より働き方改革で職員の教材研究時間の確保のため、第2、4週の水、金曜日は児童下校時刻を14:40とした。 ・計画年休の取得を年度当初に提出させ、積極的な年休取得を促している。 ・4月から9月までの超過勤務時間は平均20.7時間である。月45時間以上の勤務者は0%である。 ・働きがいを感じる職員は、肯定評価100%であった。	A	引き続き、定時退校時間の徹底や、計画年休の取得を進める。 ・効率的な職務運営ができるように、各部会の主体的な運営を指導する。 ・働きやすい職場にするため、職員への日常的な声かけなどを行いストレスなく働ける職場環境を構築する。 ・引き続き、超過勤務時間が月45時間以上0%を目指して、働き方を再考する。			
				・働きがいを感じる教職員85%以上								A		先生方の協力体制もよいので、子供にも良い影響が出ている。